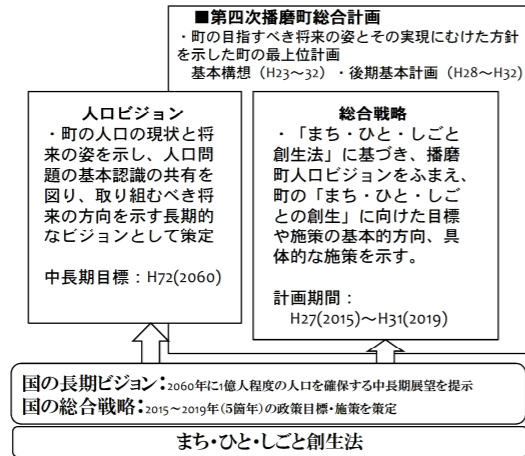


◆ 播磨町 人口ビジョン骨子 (案)

人口ビジョン策定の主旨・総合計画との関連

人口ビジョン・総合戦略は現段階での人口の現状分析・将来展望を行った上で、町の最上位計画である総合計画のうち、「まち・ひと・しごと創生施策」に関する施策を重点的に取り組む。



人口の将来展望

- ・総合計画では将来の目標人口は34,281人(平成20年時、住民基本台帳人口による)の維持を目標とし、現段階では達成されている。
- ・今後社会全体で人口が減少する中で、町の人口も国推計では減少と予測。特に人口の流出の影響が大きい。

■総人口や年齢3区分別人口等の将来展望を行う。

■人口ビジョンでは現段階での最新のデータを用いながら将来の人口推計を実施。アンケート結果を反映させながら、若い世代の定住・結婚・子育ての希望を実現することで人口の維持や人口構成の若返りを目指す。

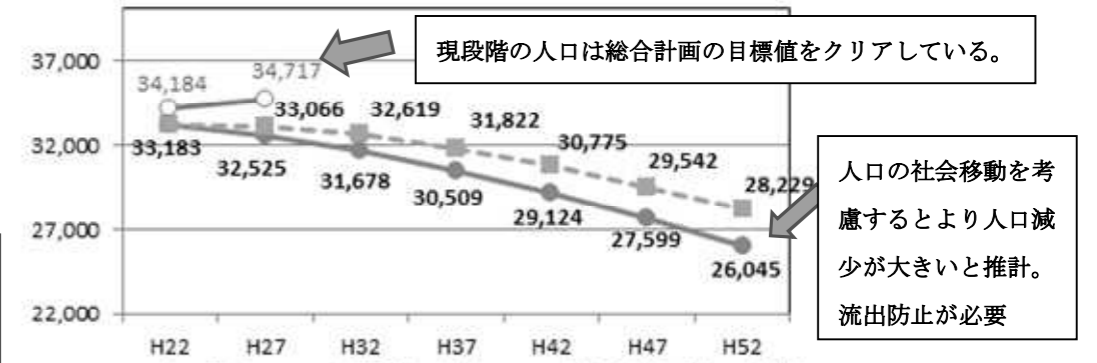


図1.将来人口推計(封鎖型・町実績値比較)

出典：「日本の地域別将来推計人口 (平成25(2013)年3月推計)」

播磨町の現状分析【現段階】

(1) 人口動向と社会変化

分析項目：総数と構成／自然増減と社会増減／年齢別の移動状況 等
・出生は回復中。今後も維持が必要。若年層は町から流出傾向が高い。

(2) 周辺市との人口移動

分析項目：転入者・転出者の状況／通勤・通学の状況 等
・長期的な定住者が多い。大都市への転出より近隣の加古川市への転出者が多い。町内在住者の通勤先も加古川市が多い。町内への通勤者も近隣市(明石市・加古川市)が多く、周辺市との関係が強い。

(3) 産業構造における人口

分析項目：産業別就業人口(居住地)／産業別従業人口(勤務地)／従業者数と事業所数 等
・住民が主に就業しているのは製造業であるが、町内の事業所においては、町外からの従業者の方が多くなっている。

(4) まちづくりと人口の関連

分析項目：地区別人口／住宅動向／土地利用状況 等

若年層の希望【アンケート実施予定】

(1) 結婚・出産・子育てへの希望

(2) 定住化への希望(17歳)

・今後の人口展望に向け、希望する子どもの数や定住(Uターン)等への希望を確認。

※アンケート内容は資料4にて詳述

基本的視点(案)

■人口の現状や若年層の希望を分析し、人口の維持や定着に対するまちの「強み」「弱み」を確認しながら、基本姿勢を提示。

○人口減少に対する課題認識を共有化する

基本姿勢1：

社会全体で人口が減少する中、人口動向の分析と認識

○まちの「強み」をのばす
出生数の回復、充実した子育て施策、地域の支え合い
歴史・文化が息づく、豊かな自然
新島における製造業の集積など産業の充実
優れた交通アクセス

基本姿勢2：

住みやすく、働ける場があり、子育てしやすいまちとして
様々なまちの魅力を積極的にアピール

○まちの「弱み」を克服する
若年層の人口流出、高齢者世帯の増加

基本姿勢3：

ライフステージにあわせた定住の取り組み

目指すべき将来の方向性(案)

■「播磨町」としての目指すべき将来の方向性を示す。

- ・進学・就職等で転出した若年層が結婚や出産を機会にUターンできるよう、すまい・しごと等、生活基盤の形成を進める。
- ・妊娠・出産から就学へ切れ目ない支援を今後も継続し、「子育てしやすいまち」を維持し、出生率の維持・向上を進める。
- ・町への通勤者や東播磨地域内で新たな居住先を探す人に向け、まちの様々な魅力をPRし、転入者を呼び込み、「選ばれるまち、播磨町」を目指す。
- ・周辺都市への快適な通勤やゆとりある住宅地の形成による、「ベッドタウン」としての魅力をPRする。
- ・健康・長寿の社会づくりにより、地域で高齢者が活躍でき、支え手となれることで、地域の活力を維持する。

【参考：国の長期ビジョン】

2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望を提示

1. 「活力ある日本社会」の維持のために

◎今後目指すべき将来の方向は、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持することである

2. 地方創生がもたらす日本社会の姿

自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。／外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。／地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。／東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。／地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく。